



東地中海地域ニュース

イラン情勢(22)：犠牲者追悼集会を強制排除

研究員 山崎 和美

政権側が街頭デモの武力制圧に乗り出し、多数の犠牲者を出した6月20日から40日目にあたる6月30日、実施申請が内務省により却下されていたにもかかわらず、改革派の支持者たちは追悼集会を実施した。死後40日目は、シーア派では死者を追悼する日に相当し、イスラム革命においても、人々による追悼集会の渦が次第に拡大し、各地に波及し、革命の原動力へと繋がったという経緯がある。

最高指導者ハーメネイー師は先日、保守派内の混乱が表面化する中、拘束されていた市民を多数釈放するなど、世論を配慮して改革派への一定の歩み寄りを見せた。ただし、今回の追悼集会も強制排除されているが、誰が排除命令を出したのかははっきりしていない。31日早朝、NHKはアルジャジーラ放送を引用して「誰がこの抗議デモの排除命令を出したかが、(現在の政権内での)力関係を象徴している」と伝えた。

改革派による犠牲者追悼集会

30日、ムーサヴィー元首相のウェブサイトは、ムーサヴィー氏とキャッルービー元国会議長が犠牲者追悼行事に出席することを示した。6月20日にムーサヴィー氏の支持者とイスラム民兵組織が衝突した際に射殺され、その映像が世界の関心を集めた女子学生、ネダー・アーガー・ソルターンさんの家族が両氏を追悼行事に招待した形である。

この日、改革派支持者たちはデモの犠牲者らが眠る、テヘラン郊外南部のベヘシュテ・ザフラー墓地に集まり、治安当局によるデモ鎮圧で命を落とした仲間を追悼した。2000人以上(AFP通信による。NHKは1000人と報道)が集まった。

ムーサヴィー氏はネダーさんの墓前でコーランを朗読しようとして、警官隊に包囲された。墓地周辺には数百人の治安部隊が配備され、「独裁者に死を」などと唱えた支持者に催涙弾を発砲し、10人弱の市民を拘束した。

またテヘラン中心部のモサッラー・モスクにも数千人(ロイター通信による。NHKは数百人と報道)が集まった。複数の場所で治安当局との衝突が起き、警察が催涙弾を撃ったとの情報がある。また、映画「ザ・サークル」など、イラン社会を風刺する作品で知られる映画監督ジャアファル・パナーヒー氏が墓地での追悼に参加し、拘束された。